

議員特別研修実施報告書

報告議員名	高橋聖悟	報告日	令和6年3月31日
調査研究・研修等 名 称	地方議員研究会		
実 施 日	令和6年3月28日～29日		
会 場	千代田区丸の内国際ビル		
調査研究・研修等の 概 要	・ withコロナ時代の地域公共交通特別講座 ・ 地方議員のための地域経済分析システム イ) 交通 DX/GX を活用したこれからの公共交通 ロ) RESAS 活用応用篇		
調査研究・研修等の 成果と感想	別紙添付		

※1調査研究・研修等の成果を証する書類の写しを添付してください。

※2調査研究・研修等に要した費用の支出を証する書類を添付してください。

所感

with コロナ時代の地域公共特別講座「交通 DX/GX を活用したこれからの公共交通」について

自動運転や電動車両等の次世代自動車技術の現状、公共交通オープンデータの活用によるデジタル化の推進、MaaSによる地域公共交通の活性化、DXだけでなくアナログでも便利にできること、新しい共有の形「ライドシェア」など、これからの公共交通について、また、もう既に始めていることや既存でもできることについて学んできた。地域公共交通については、需要の減少が進んでいるところが多いが、それについては交通事業者の経営努力や自治体からの赤字補填だけでは維持できない。地域を守る基盤的サービスである価値を再認識し、利便性向上のために戦略投資が必要とのことであった。そのためには、自動運転やMaaSなどのデジタル技術の実装やデータの活用による『交通DX』や車両電動化や再エネの地産地消を含めたエネルギーマネージメントによる「交通GX」、また、関係者との連携と協働、①官民、②交通事業者間、③他分野との「3つの共創」が必須であるとのことであった。そして、多様な立場の参画により持続性、生産性を高め地域公共交通の再構築を推進していくべきということであった。

CASE/MaaS の位置づけの再認識、環境技術、自動運転を構成するための必要な要素、またその技術レベル実用化に向けたロードマップなど今後の交通 DX、GX に欠かせない考え方を拝聴。また自動運転の実証地域の提示など昨今の他自治体の取り組みについても説明があり我々としても何ができるか可能があるか考えさせられてきた。またそれを実現させるにあたっては公共交通オープンデータをも活用して ICT 技術との連携が必要であるとも説いていました。一連の話は大きな自治体や予算力のある自治体だけではなく、地域に合わせたサービスの分類があるということで、我々独自の地域公共交通のあり方を探っていけばその活性化にもなっていくだろうということがわかった。とても良い講座でした。

地域経済分析システム RESAS 活用応用編について RESAS の経済分析活用事例について、地域経済循環マップ解説、生産分析について、分配分析について、支出分析について産業構造マップ解説について、観光マップ解説について、企業活動マップ消費マップまちづくりマップなど多種多様なデータをどのようにわが町に活用していくかを想像させられてきた。また、何よりもこの講座で得てきたものはデータの出典先がわかったこと。このことにより様々な機関から情報を引き出せる能力が出てきたことが今回の成果だと思う。だが、講座の話についてはあまり面白いものではなかった。